

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
芸西村	(和食平野部、和食山、入野、吉野・笹ヶ森、郷中・東、郷西、井ノ本・長谷寄、馬ノ上、原池、瓜生谷、久重・道家・国光) 芸西地区	令和3年3月26日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	275.8 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	153.6 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	42.0 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	15.8 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.9 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	3.47 ha
(備考)	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

(1)現状 芸西村は県東部に位置し、南は太平洋に面し、北を山々に囲まれ、年間を通して温暖な気候に恵まれ県内屈指の施設園芸地帯であり、なすやピーマン、花卉などを生産する地域です。 芸西地区は平野部を中心に基盤整備された農地において、ビニールハウスによる施設園芸が盛んであり、大規模農家等への集積が進んでいます。
(2)課題 近年は農業従事者の高齢化が進んでおり、担い手不足が進行しつつあります。そのため、後継者の確保は課題となっており解決のために、認定農業者の育成、新規就農者の支援等地域の実情に即した経営体の育成を進める必要があります。 また、山間地域では高齢による農業離れ等により、将来的な担い手不足も状況となっています。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

対象地区においては中心経営体の今後引き受ける意向のある耕作面積は、集約の状況等の条件で面積の増加も見込めるため、基本的には中心経営体への農地集約の向上を目指す。
対象地区においては認定新規就農者の受け入れをを促進することで対応する。
対象地区においては借り手及び貸し手が農地中間管理機構を活用する意思がある場合は、入作希望の認定農業者等の受け入れも含めて対応する。

- 注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

中心経営体等への集積をするためには、農地所有者の意向に関する情報を農業委員会等の農業関係機関と連携を図り、受け手の農地引き受けを円滑に進めるために農地中間管理機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていく。
